

平成19年9月1日  
(2007)  
第76号  
毎月発行  
編集  
公民館だより編集室  
発行  
西東京市公民館

# 西東京市 公民館だより

田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170  
保谷公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211  
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825  
住吉公民館 住吉町6-1-25 TEL 421-1125  
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855  
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011



消費者の会指導のもと「農業を知る講座」で収穫した大豆で「豆腐づくり」

「食の安全」をテーマに、暮らしに密着した商品、サービスの分野で、安心を脅かすニュースを耳にします。私たちは誰もが、商品やサービスの購入して、つまり消費者として暮らしていくかあります。少しでも安心して生活していくために、消費者として何を学び、どう行動していけばよいのでしょうか。地域でそうした課題に取り組み「西東京市消費者の会」(以下、消費者の会)の活動を訪ねてみました。



「消費者の会」は昭和45年、消費者保護基本法の制定(43年。平成16年に消費者基本法に改正)を受けて発足しました。消費生活の安全性と公正な取引の確立をめざして活動しています。製造、流通、販売に携わる人たちはそれぞれの分野の専門家です。「専門家は敵ではない。ただし、専門家と消費者は対等ではない」「専門家は敵ではない。ただし、専門家と消費者は対等ではない」

### ◆地元の産物を

会では「食」を基本においています。取材に訪れた日も、消費者センター(住吉町)の調理室で調理実習を行いました。地元産のじゃがいもを使った

「おじゃがもち」。以前は地域のじゃがいもは決しておいしくはなかったとのこと。生産者に努力を促し、農家もそれに応え、北海道から種を取り寄せ、いまでは大変おいしいじゃがいもが収穫されるようになりました。地元の、添加物を抑えたかりんとうを応援する取り組みもしています。都地域消費者団体連絡会主催の情報展でも販売するなどして支援しています。

### ◆環境にやさしい地域に

もう一つの柱が環境問題への視点です。市内のスーパーで、レジ袋を受け取る比率を調べる調査を行っています。西東京市民は受け取らない人の比率が20パーセントほどで、都内では成績がよい方です。レジ袋のほとんどが「3ミ」になり、焼却されるため、排出するCO<sub>2</sub>の量も莫大な数字となり、地球温暖化の一因となります。

一方NO<sub>x</sub>(排気ガス)測定では、ここ2年、多摩地区で最悪の結果でした。消費行動が生産者を追い詰めることもあります。近年聞かれるフェアトレード(適正価格での取引により現地の生産者の生活を支援する)はそうした状況への対抗運動だといえるでしょう。安全と公正を軸に、消費者と生産者、流通に携わる人びとも含めて連帯を形成していくことが課題といえましょう。

「消費者の会」のモットーは「安全の権利こそすべてに優先する」です。

## 住吉公民館閉館イベント 「ありがとう 住吉公民館」 参加団体募集!

平成20年3月末で住吉公民館は、37年の歴史に幕を下ろします。

そこで、「ありがとう住吉公民館」と題し、住吉公民館を利用してきた団体の方々が主体となって、日頃の活動の成果を発表してはどうでしょうか。このイベントに参加する団体や、協力してくれる方の参加をお待ちしています。

- ▼開催日＝平成20年2月23日(土)・24日(日)
- ▼参加団体募集期間 9月3日(月)～21日(金)
- ▼参加部門 ○発表部門 ○展示部門 ○憩い部門 他
- ▼参加申込先 住吉公民館

☎421-1125

▼呼びかけ「ありがとう住吉公民館」準備委員会 9月29日(土)14時から、住吉公民館で第一回実行委員会を開催いたします。参加団体及び協力をお願いいたします。

## サークル訪問 ～ひばりが丘親子 囲碁サークル～



まさに真剣勝負!

土曜日のひばりが丘公民館の集会室には、すでに20人程の子どもたちが集まっていました。フロアの数箇所にマットが敷かれ、対局する子どもたちは皆正座で、黙々と碁石を置いていきます。ちよつと対局を終えて地を数えている小学4年生の假屋くんとは元くんは「最後まで、何が起るかわからないところが面白い!」と言っています。勝負はハンディをもらった辻元くんの勝ち。「ありがとうございました」と一礼を交わします。「子どもたちは囲碁を通してマナーを習得していますよ」とお話しくださったのは、代表の只埜さんです。

平成13年の夏、ひばりが丘公民館主催で「子ども囲碁教室」が行われました。講座終了の際に参加した子どもたちから「これで終わってしまうの?」の声。それを受けて保護者たちも賛同し、このサークルが生まれしました。

現在参加している子どもたちは、幼児8人、小学生24人、中学生6人の38人です。毎週土曜日の午前中に活動しています。「最初は難しかったけど、理解していくうちに楽しくなってきた」「テレビゲームより面白い」と子どもたち。一見じゃれ合っているように見えても、盤面と相手が打つていく碁石を見つめる目は、真剣そのものでした。発足当時は近隣の中原小学校の児童が中心でしたが、今は栄小学校や東久留米市からやってくる児童もいて、「自分の学校以外の友だちがたくさんできてうれしい」という声も。

中学生になって部活が忙しくなっても暇を見て顔を出し、小学生を指導する生徒やこの会をきっかけにプロを目指し、日本棋院の院生になったメンバーもいます。

初心者の子どもたちには、長年囲碁を趣味にしてきたボランティアスタッフが九路盤(きゅうろばん)のルールを丁寧に指導しています。当番の保護者も立ち合っていました。

人と人とのつながりが希薄になっていくといわれる今、子どもたちは互いに顔と顔を合わせ「ふれあいの場」を持ち、いきいきと活動しています。

随時会員(小学生)募集中です。

連絡先 只埜 ☎422-9580